

SSC
 埼玉県障害者社会参加推進
 センターだより

令和4年9月30日 134号

編集
 埼玉県障害者社会参加推進センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
 県障害者交流センター内
 TEL 048-825-0707
 FAX 048-825-3070
 メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp
 HPアドレス http://saitama-shokyo.org/info/
 発行 NPO法人埼玉障害者センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
 頒価 一部100円(会費に含まれます)
 発行日 10日・20日・30日



令和4年7月1日(金)午後1時〜2時30分埼玉県障害者交流センターホールにて開催されました。
 参加者は約30名、気温40度に近い焼き付くような暑さの中、3年ぶりの開催でしたが、沢山の方にお集まりいただきました。皆さん異常気象にもめげず、お元気でホッとしました。

なぜ3年ぶりの開催なのか
 ……3年前と言えばコロナが猛威を振るい始めた頃でした。当時はまだ対処法も見つけ出せず、高齢者である我々は感染しないようにと、自由に集まることもできず、ただ自宅周辺で過ごすだけの生活を強いられてしまいました。そして、この講演も直前となったの中止となり、開催できないことに非常に悔しい思いをしました。
 ようやく、コロナ感染症への対策もわかってきたため、講師の植木氏に打診した結果、講演開催を快諾してくださり3年越しの念願の講演会を開催することができました。



また、説明の間には水分補給時間や簡単な体操時間が用意されており、健康についてその場で考えることもできました。

講演

「元気で長生き！ 高齢者の食事法」

講師 管理栄養士 植木 慶子氏
うえき けいこ

埼玉県障害者社会参加推進センター事業 一般社団法人 埼玉県聴覚障害者協会

講演会終了後の質疑応答時間では、複数の参加者より積極的かつ、熱心に質問が飛び交い、講師が丁寧に説明してくださりました。



一番驚いたことは、講師は手話で質問に回答された事でした。講師より「機会があれば、地元だけでなく県の学習にも積極的に参加すれば、勉強になるでしょう。」とアドバイスをいただきました。



手話で回答される植木講師

コロナ対策だけでなく、熱中症対策など必要となってくる季節となりましたが、みなさんが笑顔でいきいきと元気で過ごせるようにこれからも活動をこなしていきたいと思えます。

高齢部長 濱田毅一郎



生活訓練事業

盲ろう者の

コミュニケーション勉強会

埼玉盲ろう者友の会

学習部長

藤本 ふじもと

信行 のぶゆき

埼玉盲ろう者友の会は、目と耳の両方に不自由を感じている盲ろう者を中心とした団体です。

読み取る側、伝える側双方ともにトレーニングが必要です。昨年、コロナの感染拡大のため勉強会が4回しか開催できませんでした。今年7月から月1回計9回を予定し、感染対策をした上で7月・8月と勉強会を開きました。

友の会学習部では、盲ろう者を使用する様々なコミュニケーションの中で、特に身につけるのが難しいとされる触手話と指点字の勉強会を開いています。

触手話は、「ろうベース」と言われるだんだんと視力が落ちた聴覚障害者が、手で触って伝え合う手話です。また、指点字は「盲ベース」、視覚障害者が途中から耳が聞こえなくなった時に、獲得している点字の6つの点を両手の指に打って伝え合うものです。触手話も指点字も

1回目は触手話

参加者は10人。ロシアのウクライナ侵攻がニュースで毎日取り上げられており、元首相の銃撃事件もあった頃だったので社会情勢をテーマに触手話での伝え方、読み取り方を学びました。「もっと手話の技術を高めなく

てはならない」「これからも勉強会に参加して学びたい」などの感想がありました。触手話は、「楽しい」「わかる」「待つ」など手が体に触れる手話単語を対面する双方の体に触れないよう、胸の前の小さな空間で表せるよう指導しました。



2回目は指点字

参加者は触手話とはほぼ違う顔ぶれで10人。初心者グループと経験者グループに分かれて勉強しました。初心者グループは指を動かしながら五十音と自分の名前を打てるようにする事が目標。経験者グループは初め一般参加者と盲ろう者で、次に盲

ろう者同士で会話練習を行いました。普段は違うコミュニケーション方法を使う盲ろう者同士が、指点字で直接会話をするごとに四苦八苦しながらも時間を忘れるほど夢中で練習をしていました。参加者からは「定期的な練習したい」「久しぶりなので読み取り力が落ちた」「複数の盲ろう者に指点字を打ってみて違いがわかった」など感想がありました。



今後とも政府や県から行動制限が発出されない間は、できるだけ予定通り開催し、充実した勉強会になるよう努めたいと思います。もし興味を持たれた方は、ぜひ見学に来てみてください。

みんな幸せ・共生社会 県民のつどい

障害のある人もない人も みんな一緒に楽しもう!

「みんな幸せ・共生社会 県民のつどい」は障害者週間・埼玉県共生社会づくり推進週間（12月3日～9日）を記念した、障害者に対する理解を深めるためのイベントです。



1 日時

令和4年12月4日（日）

10時～15時40分

2 場所

県民活動総合センター

3 主催

埼玉県、埼玉県教育委員会、伊奈町、伊奈町教育委員会、特定非営利活動法人埼玉県障害者協議会、埼玉県特別支援教育推進協議会 等

4 内容（10時～15時40分）

- 記念式典
- 障害者週間の作文・ポスター入賞者表彰式
- 記念講演等
- 障害者団体や地元小・中・高特別支援学校の児童生徒によるステージ発表

5 同時開催

- 特別支援学校・特別支援学級作品展
- 障害者施設等の製品販売
- 障害者絵画展 等





本年6月、埼玉県膠原病友の会は創立50周年を迎えました。ここ数年のコロナ禍で、どのよう

に、思い切って全て前向きに取り組むことに決め、会員にお知らせしました。

うにお祝いしようかと役員は悩んでいました。まずは祝賀会です。会員の大半は免疫抑制剤を服用していますから外出にはとても慎重です。来賓の皆様も、状況によってはお越しいただけなくなるかもしれません。

お陰様で多くの皆様からご寄附をいただき、記念誌の作成は進みました。デザイン、印刷は障害者就労継続支援事業所においてお願いしましたところ、私達のイメージと合うように、何度も足を運んで下さいました。驚いたことに、私達の活動と社会の歩み

を記した「年表」は28ページにも及びました。行政や先生方の支援を受けながら、先輩たちから多くを受け継いでいることを有難く思います。会員体験記も、「治らない病気」という絶望から、生活をより良くしていこうと変化していく各々の強い気持ち

が伝わり、皆様には是非お読みいただきたいと思っております。

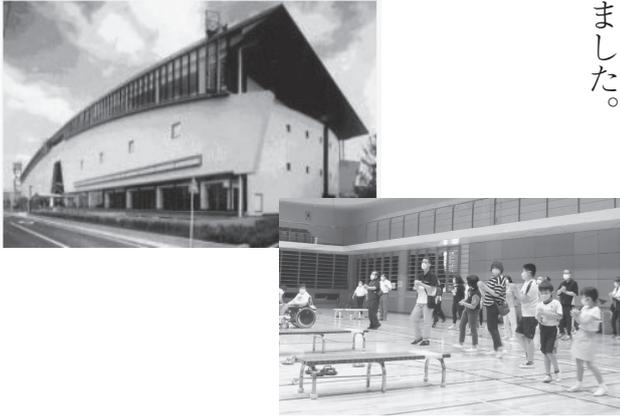


うと変化していく各々の強い気持ち

が伝わり、皆様には是非お読みいただきたいと思っております。

7月10日は、障害者交流センターホールで記念祝賀会が開催されました。参院選の投票日と重なり不安でしたが、県、議員様、先生方、埼玉協田中代表を始めとする関連団体の皆様の有難いご祝辞の後、埼玉医大三村教授の記念講演、テーブルごと先生方との医療相談会と続き、温かい会となりました。皆様の机上には、緑の中を続く1本の道を表紙とした記念誌「軌跡」も置かれました。





7月30日(土)川口市西スポーツセンター体育館において、本年度1回目の障害者レクリエーション活動等実施事業「レクリエーションのつどい」を開催しました。

「レクリエーションのつどい」 2022川口市」を開催して

スポーツ・レクリエーション教室実行委員長
やぎた 八木田 よしなり 吉成

今回のつどいは川口市から後援を得て、埼玉県障害者交流センターの協力のもと、川口市障害者団体連絡協議会との共催で、約50人と盲導犬2頭の参加で実施することができました。

広く立派な体育館ながら猛暑のなか、冷房設備のない体育館にかかわらず約1時間、『ボッチャ・フロアーカーリング・ハンドアーチェリー・輪投げ・ブラインド卓球』の5つの競技を、有志の看護師さん2名と、埼玉県障害者交流センターからスポーツ担当さん1名にもご協力頂き、新型コロナウイルス感染症・猛暑の対策に十分に配慮



ブラインド卓球：音の鳴るピンポン球を打ち合い、点数を競います。音を聞き分ける集中力。多方面から転がってくるボールを打ち合える楽しさがあります。

ボッチャ：ジャックボール（白）に向かって赤と青それぞれ6球のボールを投げどれだけ近づけられたかを競います



し、スタッフ・参加者双方汗だくになりながら実施しました。



事故もなく無事に終了し、ほんの少しですが皆さんを明るく・楽しく・元氣良くリフレッシェンできた事と思われます。

等、嬉しいご意見をいただきました。

参加者からは

久々に外に出て人と話す機会を得ました

身体を動かし汗をかいて気持ちが良かった

目が悪くても楽しめる球技等があることを知ることができました

オストミー協会埼玉支部 令和四年一日研修報告

3年振りの日帰り研修にコロナ禍の影響で何名が参加されるか心配していましたが、21名と予想以上の参加者が集まり幹事一同ホッと胸をなでおろしています。参加者の皆さま有り難うございました。



参加者集合写真



日本の通常貨幣

令和四年 一日研修に参加して 石川 伸夫

令和四年六月二三日(水)、さいたま新都心の造幣局さいたま支部にある造幣さいたま博物館と工場見学に参加しました。オストミー埼玉支部に入会して十年以上が経ちますが、一日研修の参加は、今回初めてです。

当日は、さいたま新都心駅のセンター行きバス乗場に集合、今回は二〇名の方が参加される研修となりました。

造幣さいたま博物館は、さいたま新都心駅東口からゆつくり歩いても十五分ほどの位置にあり、ゆつたりした敷地に建てられ無料で見学できる施設となっています。

博物館では、貨幣の歴史や古銭、記念貨幣、勲章などが展示されており、身近に本物の大判や勲章の作成工程、東京オリンピックの金銀銅メダルが見ることができました。

この中で特に目を引いたのが、勲章の中でも最高位に位置する大勲位菊花章頸飾、日本の勲章で唯一ネックレスの形状を取っているものだそうで、これを身近で見られその精緻な細工には、本当に感動しました。

博物館見学後は、通路でつながっている工場も見学でき、貨幣の製造、貨幣セットの製造、勲章の製造など、各製造工程を見て回ることが出来ます。

今回多くの方々と一緒に研修できたことで、新たな交流などもでき、とても有意義な研修となりました。ぜひ次回も参加させていただき、皆様にお会いしたいと思います。

第
43
回

埼玉障害者まつり

(リアル&オンライン)

「あの人に」会いたい!『あの人と』話したい!!
～守ろう! 平和な社会 進めよう! 豊かな社会福祉～

「一人ぼっちの障害者をなくそう」「障害者に文化・スポーツを」「障害者問題を県民に」をスローガンに出発した障害者まつりです。多くの障害者・家族・関係者の出会いやつながりを作ってきました。まつりが地域の障害者運動づくりのきっかけになったところもあります。

しかし、新型コロナウイルスは、経験したことのない、感染、クラスター、行動制限をもたらしました。まつりは灯を消さず、繋げてきましたが、オンラインが中心となりました。

コロナ禍になって、人とのふれあいが失われてきたように思います。そして、ちょっとした会話から、大きな要求実現するそんな機会も薄れました。

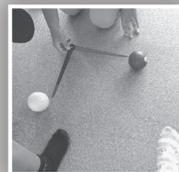
三年目に入り、このままでは、前のまつりはできない。溜まったエネルギーがあることに気づきました。

まさか、戦争が。ウクライナでの戦争もわたしたちに突きつけるものがありました。ここで、復活するしかない、新たなチャレンジをしてみたいと思うようになりました。

コロナを通して見えるもの・考えたこと、大切にしなければならぬこと、コロナ禍を通して見えてきた障害者施策のこれから。いかなる戦争に反対、平和だからこそ、生きていける私たち。そのことを表現するまつりにしてみたい。久しぶりに会おうあなたと3年分、話したい、たのしく生きよう!そして、まつりを支えてきた人たち、再び集みましょう。ブランクを埋めるまつりにしていきましょう。

- ・みちのくプロレス (女子プロ含む)
- ・ベリーダンス (春奈あきとアラビーナ)
- ・ともしび
- ・チョコミント
- ・暮らしの場「シンポジウム」
- ・どンドン繋がれ太鼓サークル
- ・みぬま・にじ太鼓
- ・マイスマイル
- ・スポレク (体育館いっぱい楽しもう)
- ・平和のための戦争展
- ・9条の会
- ・AALA連帯委員会
- ・しらさぎ会
- ・機関紙協会
- ・石井章点描展
- ・写真展
- ・模擬店
- ・バザー

美術・手芸
写真展示



スポレク (ポッチャ)



チョコミント
ドラムサークル



とき

10月9日(日)

2022年

10:00～15:00【雨天決行!】

ところ

埼玉県障害者交流センター

※当日の都合により、企画が変更される可能性があります。ご承知ください。

求む!
ボランティア
スタッフ



QRコード

主催

埼玉障害者まつり実行委員会

特定非営利活動法人埼玉県障害者協議会・障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会

〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1 埼玉県障害者交流センター内
電話・FAX 048-833-7027 E-mail syousairenssc@hop.ocn.ne.jp

後援

埼玉県・埼玉県社会福祉協議会・さいたま市・さいたま市社会福祉協議会・毎日新聞社・読売新聞さいたま支局・朝日新聞さいたま総局・毎日新聞さいたま支局・東京新聞さいたま支局・テレ玉・FM NACK5

協賛金・カンパの支援・ご協力を!

郵便振替 00160-4-57438

みなさん、会社や団体、個人として協賛金やカンパで障害者まつりを支えてください。コロナ禍であっても、どなたでも楽しめるよう、オンライン、沢山の企画。多くの障害者・家族を迎えるため! 案内や介助・ボランティアの手配の保障のために、ぜひご協力ください。

埼玉県内
障害者団体の
活動と交流拠点

「団体交流室」の入室団体を募集!



埼玉県障害者交流センター内に障害者団体の活動と交流を深める壁一つない団体交流室があります。平成 2 年 4 月 1 日に設置され、31 年が経過しています。全国的にもあまり例がない身体・精神・知的・難病などさまざまな障害を持つ人、関係者、障害者団体の活動と交流の拠点になっています。NPO 法人埼玉県障害者協議会（県内の障害者団体 36 団体が加盟）が、埼玉県から委託を受けて管理運営をしています。現在専任の職員を置き、机・パソコン等設置して活動している専用団体が 13 団体、ポストだけ置いて活動の所在地にしている利用団体が 8 団体あります。車いすユーザーの団体、聴覚障害の団体、難病患者の団体など様々な団体がコロナ禍でも交流を深め元気に活動しています。

現在専用団体の 1 机が空席になっていますので、ぜひこの機会と一緒に活動を始めてみませんか。ご利用をお待ちしています。

入室した場合、埼玉県障害者協議会に加入して、一緒に活動していただきます

- (1) 団体交流室使用料は、毎月 4000 円です（光熱費含む）。事務机、椅子などは貸与します。
- (2) 製本ができるなど多用途な印刷機、コピー機など事務機器が所定の料金で利用できます。
- (3) 研修旅行、レクリエーション、親睦会などを開催して、交流を深めています。

< 賛助会員募集のコーナー >

私たちは、埼玉県障害者協議会の活動を応援しています

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会は、すべての人にスポーツを楽しんで欲しい。「競技」だけでなく、日常的に取り組めるスポーツ活動を応援したい。をスローガンに日々活動しています。障がいがあるなしにかかわらず、健康で元気に生活するために、スポーツの持つ様々な要素・スポーツの力が必要です。今後とも、埼玉県障害者協議会同様ご支援ご協力をお願いいたします。

オフィスベンダー

文具・事務用品・オフィス家具のスーパーストア

〒337-0042 さいたま市見沼区南中野241-1
<https://www.office-vender.com/>

< 賛助会員加入のお願い >

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。賛助会員には年 8 回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。賛助会員の会費は、年一口 2,000 円です。入会をご希望の方は、下記の口座へお振り込み下さい。

< 郵便振替 > 【口座番号】 00130-9-673233

【口座名称】 特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会



編集後記

定年退職からの約 10 年は、あっという間だった。ゆったりとした時間が流れると思っていたが、そうではなかった。前半の 5 年は指定管理で運営する図書館経営に携わり、公立では取り組めなかったサービスにチャレンジすることができた。大変なことも多かったが、得難い貴重な経験と学び、人との出会いがあり人生を豊かにしてくれた 5 年間であった。次の 10 年はまだ見ぬ風景をみたいと思っている。後半は次回の編集後記に。

(H・T)